

G1 平成 22 年度活動報告

金谷麻理子, 松田裕雄

[1] 研究目的 (課題)

本研究グループ (以下, G1) は筑波大学体育センター (以下, 体育センター) の教育活動を中心に, これまでの「大学体育」を総括するとともに現状を把握することを目的として, 以下の3段階で研究活動を推進している。(図1参照) なお, 今年度は2)と3)に取り組んだ。

1) 基盤研究

「大学体育」を運営する組織の教育事業を可視化するための基本的枠組みを規定する。

2) 評価・検証研究

体育センターが展開してきた教育事業をさまざまな観点から評価・検証していく。

3) 新規提案・挑戦研究

現代および今後の社会に貢献しうる人材育成のための「大学体育」について, および体育センターにおける教育活動のあり方について研究し, 提案する。また, これからの体育・スポーツの本来的価値についての新たな知見を得る。

[2] 構成員

○金谷麻理子, ○松田裕雄, 河村レイ子, 橘直隆, 白木仁, 風間八宏, 河合季信, 川村卓, 吹田真士, 小田梓, 小山宏之, 吉岡利貞, 門野洋介, 武田丈太郎, 富川理充 (非常勤研究員)

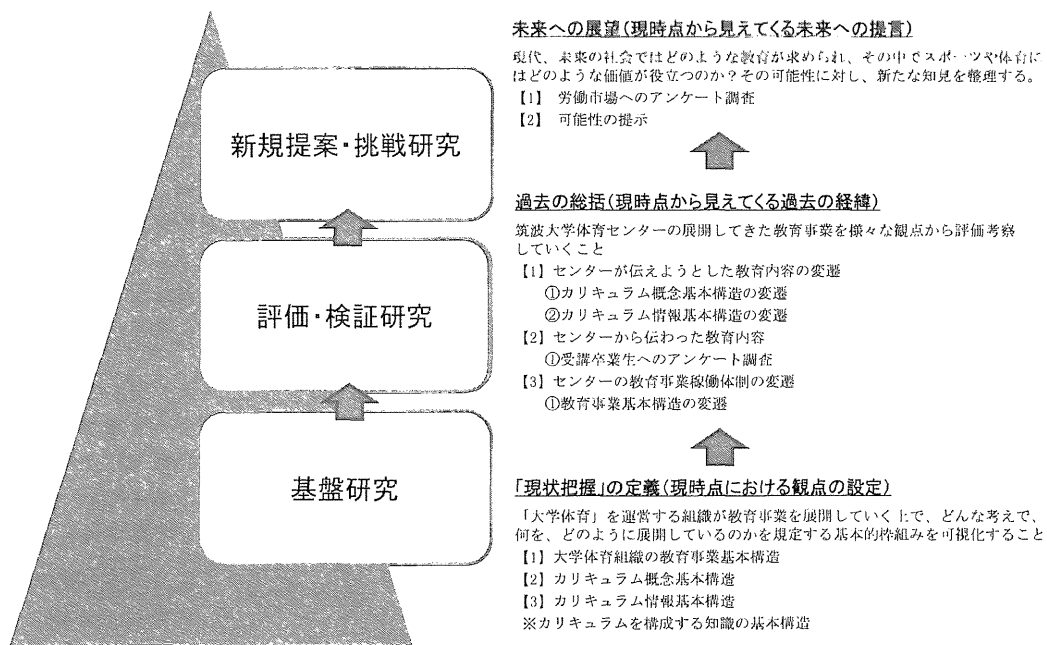


図1 研究概要

【3】活動報告

(1) 会議

今年度は定例として計11回の会議を開催した(表1参照)。上半期は、主に昨年度実施した卒業生に対するアンケート調査の結果について審議した。また、今年度新たな研究課題とした教員に対するアンケート調査と大学体育のルーツに関する調査については、第2回以降に準備、実施、結果の検討の手順で、継続的に議題とした。さらに、第5回以降は、これまでの研究成果の発表について方針および発表内容を審議し、国内・外の学会および体育センター内の研究発表会(体育センター会議、コア会議、

G2ミーティング)においてそれぞれ実施できるようにした。なお、昨年同様すべての会議において、前回会議の議事要旨の確認およびコア会議の報告、予算の提案と執行状況の報告、スケジュール確認が行われた。また、上記の他に各調査担当者が必要に応じて数多くの打ち合わせが行われた。

(2) 調査活動

今年度は、研究段階2)と3)に関連して、以下に示す3つの調査を実施した。

1) 体育センター教員(元教員も含む)に対するアンケート調査

これまでの体育センターにおける教育活動の

表1 全体ミーティングと主なテーマ

第1回(4月20日):	平成21年度総括、平成22年度活動計画、卒業生に対するアンケート調査の中間報告③
第2回(5月12日):	研究成果発表(口頭発表)のエントリー報告(日本体育学会)、卒業生に対するアンケート調査の中間報告④、大学体育のルーツに関する研究の中間報告①、教員に対するアンケート調査の方針の提案・承認
第3回(6月2日):	G2への情報提供の方針の提案・承認、卒業生に対するアンケート調査の中間報告⑤、大学体育のルーツに関する研究の中間報告②、教員に対するアンケート質問項目および実施方法の検討①
第4回(6月28日):	卒業生に対するアンケート調査の中間報告⑥、大学体育のルーツに関する研究の中間報告③、教員に対するアンケート質問紙の検討・承認およびプレ調査の方法の承認
第5回(9月1日):	研究成果発表(口頭発表)のエントリー報告(日本スポーツ教育学会)、教員に対するアンケート調査の中間報告①、大学体育のルーツに関する研究の中間報告④(米国視察報告含む)
第6回(10月6日):	研究成果発表(口頭発表)の報告(日本体育学会)、教員に対するアンケート調査の中間報告②、大学体育のルーツに関する研究の中間報告⑤
第7回(11月10日):	研究成果発表(口頭発表)の報告(スポーツ教育学会・日本スポーツマネジメント学会)と今後の予定、教員に対するアンケート調査の中間報告③、大学体育のルーツに関する研究の中間報告⑥
第8回(12月8日):	研究成果発表(投稿論文)の方向性の報告、教員に対するアンケート調査の中間報告④、大学体育のルーツに関する研究の中間報告⑦
第9回(1月12日):	研究成果発表(投稿論文および活動報告書)の概要の報告、教員に対するアンケート調査の中間報告⑤、大学体育のルーツに関する研究の中間報告⑧
第10回(2月2日):	H22年度の総括、H23年度の計画①
第11回(3月2日):	H23年度の計画②

実態を明らかにするために、体育センター所属教員および元教員を対象にアンケート調査を実施した。この場合、すでに明らかになっている体育センターの「体育」の理念およびカリキュラムの変遷と卒業生を対象としたアンケート調査の結果を踏まえて、質問項目を設定した。

2) 日本における大学体育の生立ちに関する文献調査

a. 大学体育発祥の背景と理念について

日本における大学体育の必修四単位化の経緯について、米国教育使節団、CIE 及び文部省が共同で進めてきた戦後教育改革の核心について調査することで、発祥の理念の明確化を図った。

b. 大学体育の意義に関する研究について

大学体育の意義についてこれまで多くの論争が繰り広げられており、その論争がどのような認識や価値観のもとに展開されてきたのかその傾向について調査することで、発祥の理念との整合性を図った。

3) 米国における大学体育およびスポーツの価値に関する調査

2010年8月8~20日まで米国カリフォルニア州及びネバダ州にて実施。

a. 主な訪問先

★カリフォルニア州ロサンゼルス

・26thIDEA World Fitness Convention (IDEA World Fitness Association)

・南カリフォルニア大学

★カリフォルニア州アーバイン

・Wood Bridge village association

・Wood Bury community association

・William Woolett Jr. Aquatic Center

・アーバインバレー大学

・カリフォルニア大学アーバイン校

★ネバダ州ラスベガス

・ネバダ州立大学ラスベガス校

b. 実施した調査

・アンケート調査

訪問先大学、民間施設、住宅街等で約

100人を対象に質問用紙を配布し実施した。

・ヒアリング調査

訪問先大学の体育教員、アスレチックデパートメントやレクリエーション施設のディレクター、自治体職員に対して行ってきた。

※なお本調査における成果報告は別冊にて行う。

(3) 研究成果の発表

下記の概要で研究成果の発表を行った。

1) 口頭発表

a. 体育センター G1 研究発表会

・日程：2010年7月2日（金）

・場所：体育センター会議室

・目的：G1のこれまでの研究成果を体育センター教員全員に周知するとともに、他グループの研究・実践活動の基礎となる情報を提供すること。

・演者：金谷麻理子

b. 日本体育学会第61回大会

・日程：2010年9月8日（水）

・場所：中京大学豊田キャンパス

・題目および演者：

①筑波大学体育センターにおける「大学体育」のカリキュラムの変遷

金谷麻理子 松田裕雄 吉岡利貢
宮下憲

②卒業生における「大学体育」に対する授業評価－大学における教養教育としての体育の教育効果

小山宏之 金谷麻理子 松田裕雄
富川理充 宮下憲

c. 日本スポーツ教育学会第30回記念国際大会

・日程：2010年10月10日（日）

・場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

・題目および演者：

①Characteristics of Physical Education Curriculum of Sport and Physical Education Center in University of Tsukuba

Mariko Kanaya, Yasuo Matsuda,
Toshitsugu Yoshioka, Hiroyuki Koyama
and Ken Miyashita

② Differences in Effects of Physical Education
Curriculum in University of Tsukuba before
and after the Deregulation of University
Act –Based on the Questionnaire Survey
of Alumni of University of Tsukuba–

Hiroyuki Koyama, Mariko Kanaya,
Masamitsu Tomikawa, Azusa Oda,
Masashi Suita and Ken Miyashita

③ Long-term Impacts of Physical Education
Classes on the Alumni of a National University

Masamitsu Tomikawa, Mariko Kanaya,
Hiroyuki Koyama, Azusa Oda,
Masashi Suita, Miyuki Aiba and
Ken Miyashita

d. 日本スポーツマネジメント学会第3回大会

・日程：2010年10月30・31日（土・日）

・場所：神奈川大学横浜キャンパス及びパン
フィコ横浜会議センター

・題目及び演者：

① スポーツ環境の充実を図る計画的一体型
開発地域の事例研究－カリフォルニア州
アーバイン市内ビレッジに着目して－

松田裕雄 渡和由 吉岡利貢

2) 投稿論文および報告書

a. 投稿論文

・筑波大学体育センターにおける「体育」の
教育効果に関する研究－卒業生を対象とし
たアンケート調査より－（仮題目。現在作
成中。）

・筑波大学体育センターにおける「体育」の
教育活動の実態に関する研究－教員を対象
としたアンケート調査より－（仮題目。現
在作成中。）

b. 報告書

・日本における大学体育発祥の背景と理念に
関する調査報告－GHQの戦後教育改革に
着目して－（体育センター所属教員に配布。）

・大学体育の価値及びスポーツ教育の価値に
関する調査報告－米国カリフォルニア州周
辺地域に着目して－（別冊作成中。）

・筑波大学卒業生に対する共通科目「体育」
に関する調査報告（大学体育研究プロジェ
クト報告へ投稿。）

【4】今後の展望

「現状把握」を目的としたこれまでのG1研
究活動は以下のように分類される。

1) 基盤研究及び評価検証研究：体育センター
の教育変遷に関する実証研究

・教育概念基本構造を用いた大綱化前後の相
違点について

・教育効果に関する調査（卒業生アンケート）

・教育実践に関する調査（教員アンケート）

2) 国内及び海外における実態調査研究：これ
までの大学体育の理念と意義に関する研究

・大学体育発祥の理念と背景

・大学体育の意義変遷

・米国における大学体育の実態及びスポーツ
の価値

3) 新規提案・挑戦研究：新しい大学体育への
提言及び指針提示

・上記2つのバックボーン及び一般労働市場
の動向を抑えたうえでの人材育成のあり方
について提言できる取り組みを考案してい
く。

こうしたこれまでの経緯を踏まえ、次年度の
アクションプランを本年度内に整理していく必
要がある。

付記

本活動報告は、日本学術振興会科学研究費補
助金基盤研究（A）（課題番号21240060）の一
部である。